



ウーヴェ・ローズブロック

2007年5月～6月

国籍：オーストラリア

所属：タスマニア大学合気道部

ローズブロック氏はガタリック氏と共に2007年5月から一カ月所沢道場に滞在しました。滞在中さまざまな事を経験したようです。

### 小林道場での内弟子としての生活

ウーヴェ・ローズブロック

2007年5月16日、私は内弟子になるためにオーストラリアのタスマニアを出発し、東京近郊の所沢にある小林道場に5月17日に到着しました。まず初めに、道場に迎え、稽古することを許可して下さった小林家の方々に心よりお礼申し上げます。この経験は、色々な面で私を「開眼」させてくれました。

内弟子希望者はどんな入念な下準備をしたとしても、西洋文化圏の人にとっては、「住込み」というライフスタイルを想像するのはとても難しい事でしょう。道場を清掃するために早起きし、稽古の準備をすることは、日々繰り返すことによって、あたかも宗教的儀式のようになっていきます。睡眠が足りない状態ではなおさらです。もちろん、事前にこのような状態になることは知らされていましたが、私はこのことをここに記しておきたいと思いました。

スケジュールは、朝五時前に起床し、滞在している所沢道場の清掃、道場長の住まいであり中心的な道場である小平道場への移動など、びっしり詰まっています。全ての道場でしなければならない清掃のスケジュールがあり、掃除は義務であり、まさにそこに意義があったのだと、今となってはいい思い出となりました。

所沢道場は数年前に改築されましたが、小平道場は少なくとも畳に関する限りは、昔の様子に近いものです。それは古いタイプの畳で、長年の稽古により、まるで木の床のような硬さです。私たちは道場長のもとで週何度も小平道場で稽古をする機会があったので、少しは慣れましたが、それでもほどなく膝が音をあげました。有段者や先生が稽古のほとんどを、痛みをこらえてこの畳の上で稽古されてきたという事を思うと、より一層、敬服の念を抱きます。



どんなきつい状況であっても、小林先生や弘明先生に教えて戴けるといの特権のもとでは、その辛さも苦になりません。非常に多くの有段者の方々や先生と一日、二三時間練習を続けることは、刺激的なだけでなく、合気道を極める上での自分自身の鍛錬となります。惜しみない体系だった親切な指導、とりわけ私のような外国人の間違った動きを見ても、笑顔で受けとめて下さったことに感謝しています。

そして日々のスケジュール以外にちょっとした活動に参加する機会もありました。年に一度の全日本演武大会や、富士山の麓で行われた道場長や会員の皆さんとの合宿、そして早起きして電車の中で少し眠りながら出かけた、本部道場での道主の稽古などです。道場長が指導する明治大学まで出かけた時には、非常に多くの信じられないほど熱心な学生に出会い、その光景に素晴らしい合気道の指導者の壮大な努力や人生を垣間見ました。

所沢道場では週に一度、先生方が集まりミーティングを行いますが、その際の朝食を準備するのは内弟子の役目、ということになっています。私はいったいどんな料理を出せばいいのだろうと気をもんだものです。そこで、私達は出来るだけシンプルな料理にし、デザートに凝ることで切り抜けました。でも弘明先生の奥様の実代子さんが毎週水曜日の朝作って下さる日本の伝統的な朝食には、我々がどんなに努力したところで敵うものではありませんでした。

私達にこのような経験をさせて下さったことに心よりお礼申し上げます。

